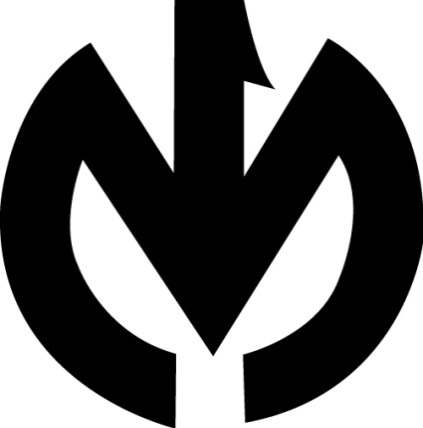
上山市における部活動の在り方に関する方針



上山市教育委員会

本方針策定の趣旨等

◯　本方針は、「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（平成30年３月 スポーツ庁策定）（以下、「国のガイドライン」という。）、「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（平成30年12月文化庁策定）（以下、「国の文化部ガイドライン」という。）及び「山形県における運動部活動の在り方に関する方針」（平成30年12月山形県教育委員会策定）（以下、「県の方針」という。）に則り、上山市立中学校の全ての部活動を対象とし、生徒にとって望ましい部活動環境を構築するという観点に立ち策定する。部活動が、以下の点を重視して地域、学校、競技種目、活動内容等に応じた多様な形で最適に実施されることを目指し、「上山市立中学校における部活動の在り方に関するガイドライン」を設定する。

＊　知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育む、「日本型学校教育」の意義を踏まえ、運動部活動においては、生徒が運動習慣の確立などを図り、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を図るとともに、バランスのとれた心身の成長と学校生活を送ることができるようにすること。文化部活動においては、生涯にわたって学び、芸術文化などの活動に親しみ、多様な表現や鑑賞の活動を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めるとともに、バランスのとれた心身の成長と学校生活を送ることができるようにすること。

＊　生徒の自主的、自発的な参加により行われ、学校教育の一環として教育課程との関連を図り、合理的でかつ効率的・効果的に取り組むこと。

＊　学校全体として部活動の指導・運営に係る体制を構築すること。

○　上山市教育委員会は、学校が行う部活動改革に必要な支援などに取り組む。

○　本方針は、上山市内全ての中学校に該当するものである。

○　上山市教育委員会は、本方針に基づいて各学校の部活動改革の取組状況について、定期的にフォローアップを行う。

１　適切な運営のための体制整備

（１）部活動の方針の策定等

ア　　上山市教育委員会は、県の方針を参考に「設置する学校に係る部活動の方針」（以下、「市の方針」という。）を策定する。

イ　　校長は、「市の方針」を受け、「学校の部活動に係る活動方針」（以下、「学校の方針」という。）を策定する。

部活動顧問は、年間の活動計画（活動日、活動時間、休養日及び参加予定大会日程等）及び活動実績（活動日、活動時間、休養日及び大会参加日程等）を作成し、定期的に校長に提出する。

ウ　　校長は、「学校の方針」及び活動計画等を学校のホームページへの掲載などにより公表する。

（２）指導・運営及び管理に係る体制の構築

ア　　校長は、生徒や教員の数、外部指導者の配置状況を踏まえ、指導内容の充実、生徒の安全の確保及び教員の長時間勤務の解消等の観点から円滑に部活動を実施できるよう、適正な数の部を設置する。

イ　　校長は、部活動顧問の決定に当たっては、校務全体の効率的・効果的な実施に鑑み、教員の他の校務分掌や外部指導者の配置状況を勘案した上で行うなど、適切な校務分掌となるよう留意するとともに、学校全体としての適切な指導・運営及び管理に係る体制の構築を図る。

ウ　　校長は、定期的に各部活動の活動計画及び活動実績を確認し、各部の活動内容を把握し、生徒が安全に活動を行うとともに教員の負担が過度とならないよう、適宜、指導・是正を行う。

エ　　校長は、部活動を適切に運営するために、部活動運営委員会（仮称）を設置し、各部活動の取組の確認や評価を行い、改善に努める。なお、部活動運営委員会は、教職員のみならず、保護者、地域のスポーツ団体関係者、文化団体関係者、地域医療関係者等も組織に加えるなどして、活動内容や時間、学校と保護者、地域の連携等について、理解や協力を求めることが望ましい。

オ　　校長は、各部活動の運営では保護者の理解と協力が重要であることから、活動計画や活動状況等の情報を常に共有し、信頼関係を深める。

また、部活動の保護者会が設置されている場合は、運営主体、学校への支援体制及び会計責任等について保護者会との役割を明確にし、共通理解を図ること。

カ　　上山市教育委員会は、各学校の生徒や教員の数、外部指導者の配置状況や校務分担の実態等を踏まえ、部活動指導員の配置を検討する。

キ　　上山市教育委員会は、部活動顧問、外部指導者を対象とする指導に係る知識及び実技の質の向上並びに管理職を対象とする部活動の適切な運営に係る実効性の確保を図るための研修などを行う。

ク　　上山市教育委員会及び校長は、教員の部活動への関与について、「学校における働き方改革に関する緊急対策（平成２９年１２月２６日文部科学大臣決定）」及び「学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取組の徹底について（平成３０年２月９日付け２９文科初第１４３７号）」を踏まえ、法令などに則り、業務改善及び勤務時間管理等を行う。

２　合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組

（１）適切な指導の実施

ア　　校長及び部活動顧問は、部活動の実施に当たっては生徒の心身の健康管理（障害・外傷の予防やバランスのとれた学校生活への配慮等を含む）、事故防止（活動場所における施設・設備の点検や活動における安全対策等）に努めるとともに、体罰・ハラスメントの根絶を徹底する。

　　上山市教育委員会は、これらの取組が徹底されるよう、学校保健安全法なども踏まえ適宜、支援及び指導・是正を行う。

イ　　部活動顧問は、スポーツ医・科学及び生徒のバランスのとれた健全な成長の確保の観点から休養を適切に取ることが必要であること、また、過度の練習が体力・運動能力及び芸術文化等の能力の向上につながらないことなどを正しく理解する。併せて、生徒の体力・運動能力、芸術文化能力の向上や、生涯を通じて活動に親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコミュニケーションを十分に図り、それぞれの目標を達成できるよう、競技種目及び分野の特性等を踏まえた練習の積極的な導入により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。

また、専門的知見を有する保健体育科担当の教員や養護教諭等と連携・協力し、発達の個人差や成長期における体と心の状態等に関する正しい知識を得ながら指導を行う。

（２）部活動指導のための各種手引の活用

部活動顧問は、中央競技団体が作成した指導手引や「運動部活動外部指導者の手引き」（平成３０年３月県教育委員会）及び文化部活動に関わる各分野の関係団体等が今後作成する手引きを活用して、２（１）に基づく指導を行う。

３　適切な部活動の運営

各学校の部活動の運営に当っては、下記の点に留意し、適切に行うものとする。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ① | 学期中の休養日 | 週当たり２日以上（平日1日以上、週休日１日以上） |
| ② | 活動時間 | 平日２時間程度、週休日３時間程度 |
| ③ | 長期休業中の休養日 | 長期の休養期間を設ける  （連続した休養日の設定） |
| ④ | 始業前の練習 | 禁止 |
| ⑤ | 保護者会主催の練習会 | 禁止 |
| ⑥ | 部活動と同様のクラブ等の活動 | 部活動の活動時間と合わせて上記基準内の活動とする |

ア　　上山市教育委員会及び学校は、部活動における休養日及び活動時間について、成長期にある生徒が、運動、食事、休養及び睡眠のバランスのとれた生活を送ることができるよう、以下を基準として遵守する。

①学期中の休養日

・　休養日は、週当たり２日以上（平日１日以上、週休日１日以上）設定する。

②１日の活動時間

・　長くとも、平日では２時間程度、休業日（週休日、休日、長期休業日）では３時間程度とする。その際、短時間に合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。

・　上記の活動時間とは、通常の練習の活動時間であり、大会・練習試合・合宿等（以下「大会等」という）については上記活動時間を適用しなくても良いが、大会を計画する際には、上記２（１）で示した観点や教員の負担軽減、各学校で参加する大会の見直し等（後記）を踏まえ、毎週大会に参加するなどの過度な負担とならないようにする。

③長期休業中の休養日

・　学期中の休養日に準じた扱いで、週休日に休養日を設定することが望ましい。

・　部活動以外にも、多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間を設ける。

・　長期の休養期間後の部活動は、生徒の身体的な負担を考慮し、段階的に活動を始めるなど配慮する。

④始業前の練習（いわゆる朝練習）

・　始業前の練習は禁止とする。ただし、校長が「中体連主催大会」の前や活動場所の割当等の事情があると認める場合は、実施することができるものとする。その際、学習が始まる前の時間帯であることを考慮した内容や強度となるようにし、１日の合計が２時間程度となるように配慮する。

⑤保護者会主催の練習会

・　校長は、保護者会が設置されている部活動について、その目的が部活動の支援・協力・応援にあることを確認し、保護者会主催の練習会は禁止する。

⑥部活動と同様のクラブ等の活動

(a)　該当団体への加入は任意とし、保護者会として強制加入または加入しなければならないような雰囲気にならないよう、上山市教育委員会は団体関係者に、校長は保護者に、理解と協力を求める。

(b)　上山市教育委員会は、各種団体の活動日・活動時間等が上記①～④の基準になるように、各種団体関係者に理解と協力を求める。

(c)　校長は、部活動顧問（生徒が部活動に所属していない場合は担任）に対し、自らの能力の向上を目指し、学校外のクラブなどに所属し活動している生徒については、その活動の実態を把握するよう指導する。

イ　校長は、「市の方針」に則り、各部活動の休養日及び活動時間等を設定し公表する。また、各部活動の活動内容を把握し、適宜、指導・是正を行うなど、その運用を徹底する。

ウ　休養日及び活動時間等の設定については、地域や学校の実態を踏まえ以下のようなことも考えられる。

・　定期試験前の一定期間に、学校全体の部活動休養日を設ける。

・　「中体連主催大会」「文化連盟主催コンクール」等の前に、特別強化期間＊を設定する場合には、少なくとも週１日の休養日を設けたうえで、週間、月間、年間単位での活動日数・時間の目安を示し、休養日を振替える。

＊大会などの前に、学校独自の休養日・活動時間を設定して活動する一定の期間のこと。

４　部活動における事故防止について

（１）活動前における配慮事項

ア　連絡体制の整備と健康状態の把握

・　校長は、学校の管理下において事故が発生した場合に備え、危機管理マニュアル（部活動中の事故を含む）を確立し、平素から部活動顧問・生徒・学校とともに共通理解を図る。

・　校長は、部活動顧問に対し、生徒の既往症（心臓疾患やアレルギーの有無等）を事前に把握し、万一の際の対処法を養護教諭、生徒本人及び保護者と確認するよう指導する。

・　部活動顧問は、活動前に生徒の体調確認を行うなど、事前の事故防止を徹底する。

イ　安全点検（施設・設備・備品・用具・ＡＥＤ設置場所確認）

・　校長は、部活動顧問に対し、活動場所、設備、備品及び用具等の安全点検について、日常的に行うよう指導する。

・　校長は、部活動顧問に対し、ＡＥＤの設置場所を確実に把握するように指導するとともに、ＡＥＤの使用方法については、部活動顧問を積極的に研修会に参加させたり、講師を招聘しての校内研修会を開催したりするなどして、部活動顧問が確実に使用できるように努める。

（２）活動中における配慮すべき事項

ア　体調の確認と円滑なコミュニケーション

・　部活動顧問は、活動中にも生徒の体調確認を行うとともに、生徒が体調不良の際には、自らすぐに申し出ることができるよう、生徒と円滑なコミュニケーションを図る。

イ　生徒自身の管理

・　部活動顧問は、生徒に対し自ら事故や熱中症等を回避するなど、自己の危機管理ができるよう指導する。

（３）天候などを考慮した指導について

校長は、部活動顧問に対し、活動時の気象情報には十分留意し、下記のことについて指導する。

・　高温・多湿時において、部活動などが予定されている場合は、活動の延期や見直しなど、柔軟な対応を行う。なお、日程調整の関係などでやむを得ず開催する場合には、室内の活動であってもＷＢＧＴなどにより環境温度の測定を行い、ＷＢＧＴ３１℃以上を指している間は原則として活動中止、ＷＢＧＴ２８℃以上の場合は、参加する生徒の適切な選定、こまめな水分・塩分の補給や休憩の取得、観戦者の軽装や着帽等、生徒の健康管理を徹底することとし、活動中に熱中症の疑いのある症状が見られた場合は、「熱中症対応フロー」に従い、迅速に対応する。

・　雨天時などにやむを得ず活動する場合は、生徒の衣服が濡れたままで長時間活動することで低体温症になることのないよう、健康管理に十分注意する。

・　雷や暴風雨の際には、活動の中止や中断の判断を的確に行う。

５　生徒のニーズを踏まえた活動環境の整備

（１）生徒のニーズを踏まえた部の設置

ア　校長は、部活動が生徒の自主的、自発的な参加に基づくものであり、現在の活動が性別や障がいの有無を問わず生徒の多様な潜在的なニーズに応えなければならない状況を踏まえ、競技力・技能等の向上や大会などでの好成績以外にも、友達と楽しめることや、適度な頻度で行えること等、生徒が参加しやすい部の設置などの体制づくりに努める。

具体的な例としては、季節ごとに異なるスポーツの活動、競技志向でなくレクリエーション志向の活動、体力つくりを目的とした活動等、生徒が楽しく体を動かす習慣や芸術文化等の活動に親しむ動機づけとなるものが考えられる。

イ　上山市教育委員会は、少子化に伴い、単一の学校では特定の競技の運動部、特定の分野の文化部を設けることができない場合には、生徒の活動の機会が損なわれることがないよう、複数校の生徒が拠点校の部活動に参加するなど、合同部活動の体制づくりを検討する。

ウ　上山市中学校体育連盟は、当該校の教員が行うことが原則である生徒の引率について、学校の諸事情によりできない場合、上山市教育委員会の責任のもと他校教員の生徒引率を認めるなどの検討を進める。

（２）地域との連携等

ア　上山市教育委員会及び校長は、学校や地域の実態に応じて、地域のスポーツ団体・文化団体との連携及び民間事業者の活用等により、学校と地域が協働した部活動の在り方を検討するなど、生徒の活動環境の整備を進める。

イ　上山市体育協会や競技団体及び文化団体協議会等は、上山市教育委員会と連携し、学校と地域が協働・融合した形での部活動環境の充実を推進する。

また、上山市教育委員会が実施する部活動顧問などに対する研修等、指導者の質の向上に関する取組に協力する。

ウ　上山市教育委員会は、生徒が運動・文化活動に親しめる場所が確保できるよう、学校施設開放事業を推進する。

エ　上山市教育委員会及び校長は、学校と地域・保護者が共に子どもの健全な成長のためのスポーツ・文化活動の環境の充実を支援するパートナーであるという考え方について、地域・保護者の理解と協力を促す。

６　学校単位で参加する大会等の見直し

ア　上山市中学校体育連盟は、主催する体育大会の在り方について、上記５及び、山形県中学校体育連盟とともに、複数校合同チームの編成及び大会参加の在り方についての見直しや、部活動と地域が融合した活動での大会参加などについて意見交換を進める。また、参加生徒のスポーツ障害・外傷の予防の観点から、大会の規模もしくは日程等の在り方及びスポーツボランティアなどの外部人材の活用等の運営の在り方に関する見直しを行うよう検討する。

イ　上山市教育委員会、上山市中学校体育連盟及び文化団体協議会等は、部活動が参加する大会・試合・行事等の全体像を把握し、週末などに開催される様々な大会・試合・行事等に参加することが、生徒や部活動顧問の過度な負担とならないよう大会等の見直しに向けた検討を主催者及び各団体に要請する。

ウ　校長は、教育上の意義や、生徒や部活動顧問の負担が過度とならないことを考慮して、参加する大会等を精査する。